
卒業式

音無 無音

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

卒業式

【Nコード】

N3411R

【作者名】

音無 無音

【あらすじ】

私の幼馴染は今年でこの高校から去ってしまふ。その前に、一言言わなきゃ。彼女、浅野 沙弓は思った。

もうすぐ卒業式だね、と。

誰かが言った。

私は「そっかあ」と振り返り、雪の降っている空を見上げた。

「圭君」

私はふと。

目の前を歩いていた幼馴染の之野田^{ののだ} 圭吾^{けいご}に声をかけた。

「ん？ああ、浅野^{あさの} 沙弓^{さゆみ}サン」

「やめてよ。そっちが先輩でしょ。もうすぐ卒業だね」

「そうだな。」

名残惜しそうに言う。

教室に入ると、クラスの人たちが先輩へのメッセージを書いていた。
私も書くのかな。

考えてないや。

「沙弓！おはよ。どしたの？浮かないかおして」

「え？」

確かに、圭君との別れはさみしいけど・・・。

「あ、それと、はいこれ。書いて」

渡されたのは色紙。

「？ うん」

理解のいかないまま、その色紙を手にとった。

家に帰って、勉強をしているとき。
私は思った。

このまま、自分の心のモヤが取れないままでもいいのかな、と。
いいはずがない。
だって。

私は彼が好きなのだから。

「え、なっ!？」

自分の思考に対し真っ赤に顔を初めてしまった。
不覚。。。。

卒業式当日。

「おめでとーございまーす」

「ありがとうー」

私はそんな中、作り笑顔で卒業生を送っていた。

「んな顔だと誰も寄り付かねえよ」

「!」

その言葉に顔を上げると、圭君が。

「え、な？」

その時二人の間を押しノいて女子が。

「せんぱあい、第二ボタンくださいよお」

「あ、だめです!あたしに!」

意外と人気なのかな。

「ん?ダメダメ。やる相手決まってるから」
なにそれえ、と彼女らは言う。

そうだよ、好きな相手くらい、いるよね。

「おい、沙弓。帰るぞ」

「え？あ、はい」

ばたぱたと、私は彼について行った。

「沙弓、手エ出せ」

「？」

いわれるがままに手を出すとコロソ、とボタンをくれた。
彼の第二ボタンがない。

「やる」

「・・・・・・」

私は啞然とした。

「何？いらねえの？」

「い、いります！いる！！」

「ふん」

嬉しそうに彼は笑った。

通じたのかな？

「圭君」

「何？」

「大好き！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3411r/>

卒業式

2011年10月3日11時24分発行